

病院・施設における 感染性胃腸炎流行の予防と対策



独立行政法人国立病院機構
九州医療センター 感染制御部副部長
感染管理認定看護師
小田原美樹

本日の内容

1. ノロウイルスとは

特徴・感染経路・症状・診断と治療

2. 感染性胃腸炎(ノロウイルス含む)の感染対策

手指衛生・器具や環境の消毒

3. 集団発生を防ぐための取り組み



1)特徴

- ・ 乳幼児から成人までの幅広い年齢層に、胃腸炎を引き起こすウイルス。
- ・ 冬季(毎年11月～翌年の4月頃)にかけて流行するが年間を通して発生している。
- ・ 感染力が強く(ウイルス量100個以下でも感染が成立)、食中毒や施設内での集団発生が社会問題となっている。

2) 感染経路

食中毒型	<ul style="list-style-type: none">・ノロウイルスに汚染された牡蠣などの二枚貝を生食または加熱不十分での喫食・感染した調理者等を介して汚染された食品等から感染
二次感染型	<ul style="list-style-type: none">・感染者の糞便・吐物などから、直接又は間接的に、手や環境表面、物品を介して感染

3) 症状

- ・ 潜伏期は12時間～48時間である。嘔気、嘔吐、下痢が主症状であるが、腹痛、発熱、倦怠感を伴うこともある。
- ・ 乳幼児や高齢者、体力が弱っている方の嘔吐、下痢による脱水や窒息には注意が必要。
- ・ ウイルスは、症状が消失した後も3～7日程度（長期の場合もある）は便中に排泄される
- ・ 不顕性感染も少なくない。

4) 診断と治療

- ・ ノロウイルスは培養によるウイルス分離ができないため、電子顕微鏡によるウイルス粒子の観察、ウイルス粒子中の核酸検出、ウイルス表面の抗原の検出が行われる。
- ・ 核酸検出法や抗原検出法を用いたノロウイルス検査キットが市販されている。
- ・ ノロウイルスの増殖を抑える薬剤はなく、整腸剤や吐気止めなどの対症療法が中心となる(下痢止めの投与は避ける)。

ノロウイルス感染症の感染対策

【接触感染予防策と飛沫感染予防策】

- ①汚染した環境や患者に接触することで接触感染が起こる。
石けんを使用した流水による手洗いが基本である。
- ②ノロウイルスの飛沫感染は、床に飛び散った患者の吐物や下痢便の飛沫を吸い込むことで起こる。
吐物などの処理が重要。
- ③患者はできる限り個室管理あるいはコホーティングする。
- ④患者病室への入室の際には手袋とガウンを着用する。
必要に応じて、サージカルマスクやアイプロテクションを使用する。

感染性胃腸炎患者のケア後
あるいは接触後には必ず手洗い!!

便処置のあとは、**流水と石鹼で手洗い**



・ノロウイルス など
下痢症状を起こす微生物は
アルコール消毒が効きにくい

器具や環境の消毒

- **加熱**（消毒対象物が85°C1分以上になる条件）での処理が有効
- **次亜塩素酸ナトリウム0.1%～0.02%**が有効
（塩素濃度200～1000ppm）
 - ※吐物や便の付着箇所の消毒・・・0.1%溶液
 - ※環境や器具の消毒・・・0.02%溶液
- 次亜塩素酸ナトリウムは**有機物**（血液、体液、食物残渣など）の存在により、速やかに**濃度や効果**が**低下する**ため、取り扱いには注意が必要である。

環境の消毒

- ・ 環境消毒には
「ペルオキソー硫酸水素カリウム配合剤」も有効

※ペルオキソー硫酸水素カリウム配合剤は近年国内に導入された改良型塩素系の環境除菌・洗淨剤であり、塩素臭がほとんどなく、金属腐食性など素材に対する影響が少ないとされている。

「ペルオキソー硫酸水素カリウム配合剤」

環境清拭用 **ルビスタ[®]** **ワイプ** (300枚入)の使用方法

準備する物



3包

環境除菌・洗浄剤
ルビスタ パウダー5g



調製ボトル
1.5L用



環境清拭用
ルビスタワイプ



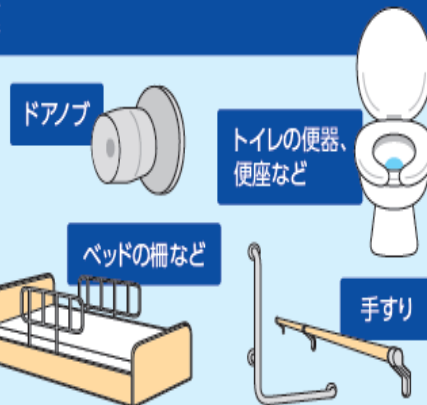
ルビスタワイプ
詰替用 300枚入

使用用途

手のよく触れる環境表面を清拭します

- ・ドアノブ、机、家具、ベッド周囲、スイッチ類 等
- ・トイレの便器、便座、水洗レバー、洗面所の蛇口 等
- ・床、手すり 等

※ルビスタワイプはトイレに流せません



ルビスタ ワイプの管理 (使用後)

- ◎ 作製したワイプの**使用期限は溶液の調製から7日間**です
※ 調製日シールを用いて使用期限の管理をしてください
- ◎ 使用期限の過ぎたワイプは廃棄し、**新たに作製**します
※ 一度、容器内を水で軽くすすいでから作製してください
- ◎ 続けて使用しない用具は**水洗い**し、乾燥させ保管します

ノロウイルスの流行期

- ①ノロウイルスなど感染性胃腸炎の流行期やアウトブレイク中は、環境整備を1日1回から2回に増やす
- ②また、良く触れる表面は1日3回の清掃・消毒を行う
- ③頻繁に接触する表面・・・便器、トイレ、水道の蛇口、手すり、ベッド柵、電話、ドアの取っ手、コンピューター器具等がある

KRICT 感染制御からみた オムツ交換の手順

感染制御からみた オムツ交換の手順



株式会社医療法人 KRICT
（公益財団法人）


4 オムツ交換



実施者

- ① オムツを開き、ペーパーで便・尿を拭き取る。




 使用済みのペーパーは、使用済みオムツの上に置きましょう。

尿や便が付着していても、使用オムツの内側は病原性微生物で汚染されているので、取り扱いに注意しましょう。


- ② 陰部・臀部を洗浄する。



 洗浄用ボトルは使用後、洗浄液が飛び散り汚染されているため、他のものに触れないようにしましょう。また、清潔な場所へ置かないようにしましょう。


- ③ 使用済みオムツを外す。



 汚れた手袋で新しいオムツを汚さないように新しいオムツは、介助者が取り扱います。

- ④ ビニール袋の折り返し部分を持ち、使用済みオムツを廃棄する。ビニール袋をワゴンの下段に置く。



 ビニール袋の折り返し部分は、使用済みオムツが接触していますので、注意して取り扱います。



介助者

- ① 患者の体幹・下肢の保持や、状態の観察を行う。

- ② 洗浄ボトルで温水をかける。

- ③ 使用後の洗浄ボトルをワゴンの下段に置く。

- ④ 新しいオムツを敷き込み、装着する。

陰部洗淨ボトルの管理方法

陰部洗淨ボトルは、**排泄物(便・尿)、洗淨時の水跳ねで汚染されやすく交差感染の原因**となりうる。

- 複数の患者でのボトルの使い回しはしない



排泄介助(オムツ交換を含む)

- ・ おむつ交換は、必ず使い捨て手袋を着用して行うことが基本です。
- ・ その場合は、一ケアごとに取り替えることが不可欠です。
- ・ また、手袋を外した際には手洗いを実施しましょう。

おむつ交換車の管理

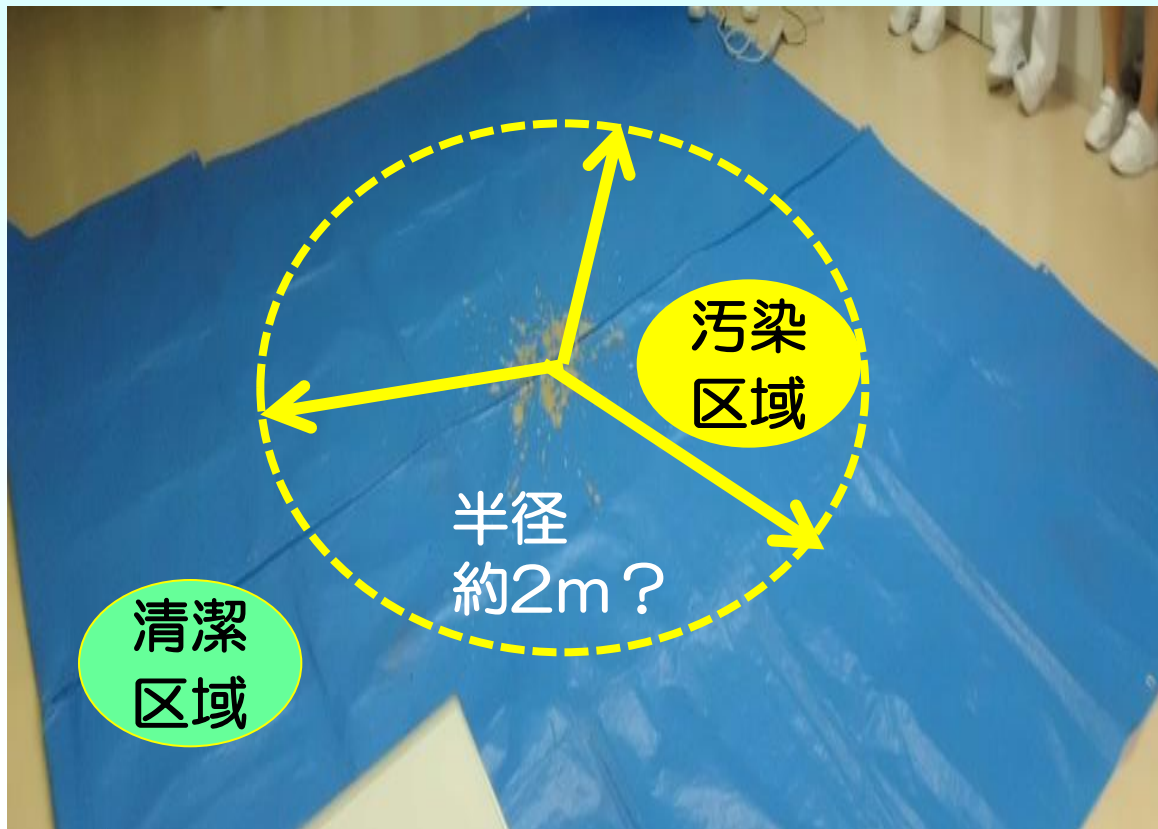
おむつの一斉交換は感染拡大の危険が高くなります

おむつ交換車の使用は感染拡大の危険が高いためできるだけやめましょう。

入所者一人ごとに手洗いや手指消毒をすることを徹底し、手袋を使用する場合には一ケアごとに必ず取り替えるなど、特に注意しましょう。

嘔吐物の処理について

嘔吐した場所によっては、壁への飛散にも
注意が必要



嘔吐物処理のポイント

①作業者自身が感染しないこと

②速やかに正しく処理を行う

➤すぐに拭き取る

➤乾燥させない

➤消毒する

速やかに正しく処理を行うためには

- ①突発的な事態でも安全な処理ができる
- ②慌てないで対応するにはトレーニングが必要

ルビスタ 嘔吐物処理キット

用途

嘔吐物などで汚染された環境表面の除菌・洗浄

使用方法

動画による使用方法はこちら 

汚染を防ぐためにも、以下の手順に従い正しく処理を行ってください。



1 ツルツルした面を上にする
はじめに吸水ポリマーシートで嘔吐物を覆い、②～⑤の準備作業を行う。



2 キャップを閉めてボトルを軽く振る
調製用水にルビスタパウダーを入れ、溶解させる。(ルビスタ調製液の作製)



3 ルビスタの溶解を待つ間、使い捨てエプロン・マスク → 手袋の順に装着する。



4 処理キットの中身を全て取り出し、外箱のフタを起こして図の様にする。



5 口の部分を外側に折り直す
外箱にポリ袋をセットする。(ゴミ袋として使用します)



6 嘔吐物を覆っている吸水ポリマーシートを回しながら固形物などをすくい取る。



7 処理したものをポリ袋に廃棄する。



8 1回で使い切らないように
ペーパータオル数枚で残った嘔吐物を覆う。



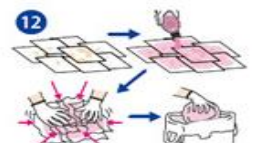
9 1回で使い切らないように
嘔吐物を覆っている、ペーパータオルの上からルビスタ調製液を全体に注ぐ。



10 残った嘔吐物を中央に集めるように、まんべんなく取り除く。



11 処理したものをポリ袋に廃棄する。



12 再度、⑥～⑩の作業を繰り返す。(必要に応じて同じ作業を数回行う)



13 必要に応じてペーパータオルで乾拭きし、残った水分を拭取る。



14 使用後のペットボトルも廃棄する
処理したものをポリ袋に廃棄し、余ったルビスタ調製液は上から振りかける。



15 手袋→エプロン・マスクの順に取り外し、都度ポリ袋に廃棄する。



16 内側に触れないように注意
ポリ袋の内側に触れないように注意し、口をしっかりと結んで廃棄する。



17 全ての処理が終わったら、必ず手洗いうがいを充分に行う。

職員の体調管理について

患者および入居者、利用者を感染から守るためには、職員の健康管理が重要である



まとめ

- ・ ノロウイルス感染症などの感染性胃腸炎対策は標準予防策に追加して、接触感染対策と飛沫感染対策を実施する。
- ・ 冬季の流行前に、スタッフへの教育と対策に必要な手技や物品の見直しも重要である。
- ・ 患者および入居者、利用者を守るためには、職員の健康管理も重要である。